



# 私の宗教考察

ほしの やすお

世界には、現在非常に沢山の宗教がある。それらの中には各々の主張が、全くといっていい程違ふ様に思われ、対立するものや、或いは寛容という宗教的な名目で、互いに相手の立場を認容、尊重しているものもある。この数多くある宗教を個別に分析して、説明を加える事は、とても出来ない。世界四大宗教といわれるものの内で、比較的関係の深い仏教とキリスト教について、書いてみよう。

## キリスト教について

まず最初に気がつくのは、神への信仰、神の存在如何の問題である。若い年代の者の多くは、神を信じている。事は、甚だ難かしいのが現状であり、又現代人は、それ程合理的に生きようとすする態度というか、科学的なものの考え方というか、そういったものが、表面的には、過去の人々に比べて、身についているように思える。そして私自身もキリスト教信者の敬虔な態度や、他人の為に尽すといった行動に「愛」の精神に立脚した行動を目の当たりに見て非常に打たれた何かを感じながら、現実にはキリスト教には入って行けそうにもない。いや逆にキリスト教を出発するだけ批判したいと考えている位だ。勿論批判であり唯単に、非難

明についてもいえるのだ。

そうして社会全体の進歩は、遅くなく十六世紀に入って、その旺盛したキリスト教は、宗教改革によって、ある程度、最初の原始キリスト教の精神に復帰したのである。

更に十九世紀には、かの有名なニーチェが「神は死んだ」と宣言したのである。最も現在でも尚且つ、キリスト教の神は信者の心に存在しているのである。

以上の様な歴史的な流れを持つキリスト教に対して、私個人が納得出来ない点は、他のほとんどの人と同じように「神の存在如何」ということである。結論的には、神は存在せずと私は考

えるのだ。一歩進んでいけば、神は人によって作られたものであると思う。人の頭の中で作り出されたものであるのだと……。

神が存在するかしないかの議論の根柢には、この事実が有ると考えざるを得ないのである。

キリスト教信者にとって、神は永遠にして、全智全能なる唯一者であり、人間は、その創造物の一部に過ぎないと考えている。

しかし私は、更に人間が「神」を作ったことは、一つの手段であると思念している。人間が、自然の無限とさえない巨大な、威力の前にたたずんで、自己の微小たる存在に気がつき、自らの有限性、弱少性を目の当りに見た時、人間への深い失望、絶望を感じた時、何らかに依存したい、苦惱から逃れ

## たい時

つまり割れつつあるものが、ワラをも掴もうとする悲愴な、本能的、動物的とさえない生命への執着の瀬戸際において、神への絶対的帰依による救いは、暗黒の中の一糸の光にも例えられ

でも私は、信者の純粋な、人間的な暖みにも拘わらず、敢えて否定しなげはならないのだ。少くとも、自分自身に対しては。

ラブラスの隠という言葉がある。これは現在に於ける物質を構成する、基本的微粒子の全ての位置と運動量を知らば、無限の過去から永遠の未来迄の物質の位置と運動量を完全に決定出来るというものである。この立場の背景には、ニュートンの絶対時空間の思想が入っていると思う。

そして現在の先端を行く科学思想は我々に次のことを教えている。即ち、未来は決定論的に定められているのではなく、確率論的な現象であり、偶然性がつきまとうということである。

これと同様に「神」という絶対者の存在が時空間やありとあらゆる存在物を全く計画的に調和的に、作っているのではないのだ。それでは不確定な未来に動きかけをするのは何でしようか

未来を作り未来を固くのは、人間自身である。勿論、人間は自然が与えてくれた環境の中に生きていて、それは人間を限定すると同時に、未来の可能性を与えてくれている。人間は自らを未来に投げかけることの出来る存在であり、環境に適応し又、環境をそれ自身に適応させる、変革させることの出来る存在である。

## 仏教について

この立場に非常に類似しているものとして、もしくは同一であるか或いはより包括的であるかもしれないが、それには仏教があると思う。

仏教の真髄は「人間」それ自身である。神ではない。超人的な仏でもない。唯ありふれた平凡な無力な人間、それ自身である。キリスト教に於ては、キリストは、神の子であり、人間とは、

明瞭に区別され、神秘的な超科学的な能力をもっている。しかし仏教に於て釈迦は我々と同じ人間である。何ら超自然的な力を持っていない訳ではなく、そして何ら奇跡の行なえ得る存在でもない。彼は我々と全く平等な立場だ。

しかし、その釈迦の立場にこそ、心の底から強く魅かれるものを感じる。後世になって、釈迦は、全智全能の存在に仕上げられ、人々は、極楽往生があると信じたのである。

次の一句に仏教精神は表われている。「自己の依所は、自己のみなり。他にいかな依所あらんや。自己のよく調御せられたる時、人は得がたき依所を得るなり。」

そして、私がいつも思うこと、それは、一生の間何か根本的なものを把握したいということ。

